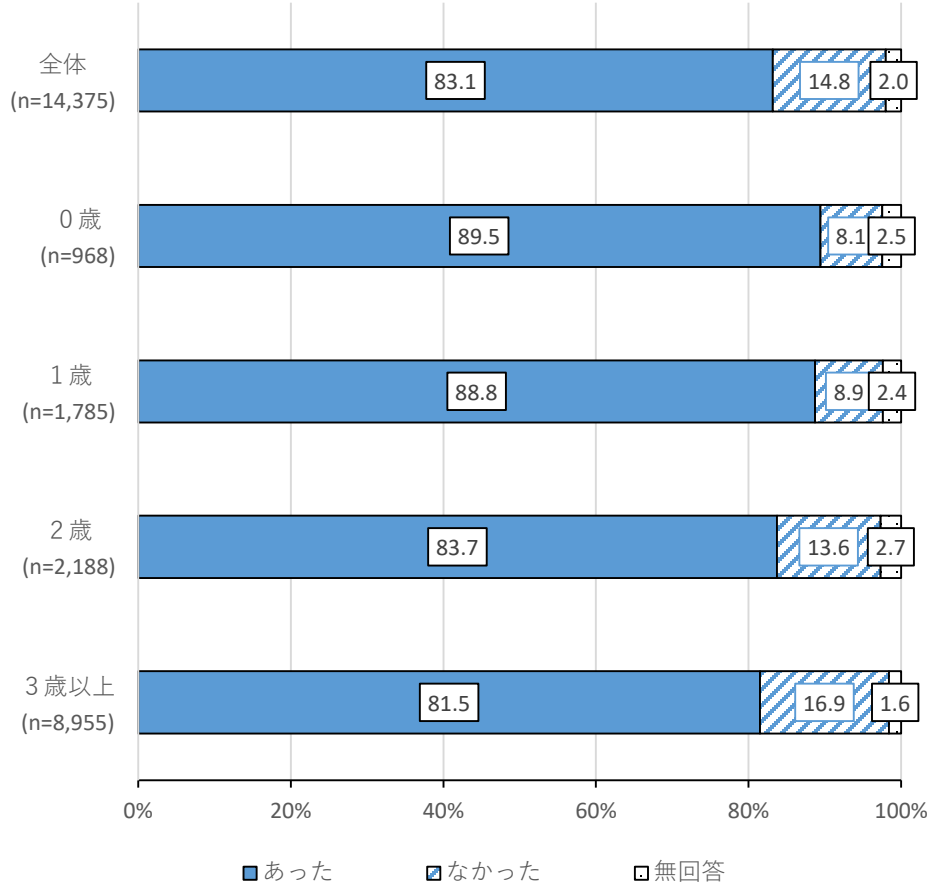
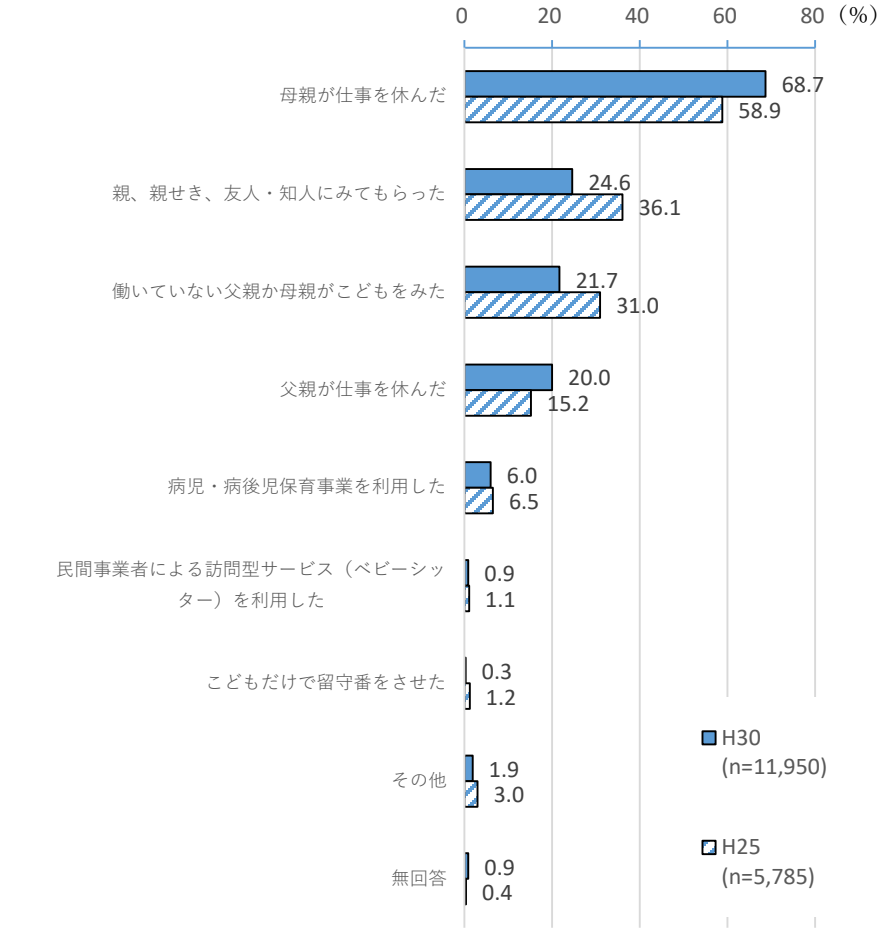
こどもが病気等でサービスを利用できなかったことの有無

- こどもが病気等でサービスを利用できなかったことの有無については、「あった」が83.1%、「なかった」が14.8%となっている。
- こどもの年齢別でみると、「あった」は０歳（89.5%）で最も高く、年齢が上がるほど割合が低くなっている。
- こどもが病気等でサービスを利用できなかったことがあったと回答した人に、そのときの対処方法についてたずねると、「母親が仕事を休んだ」が68.7%で最も多く、次いで「親、親せき、友人・知人にみてもらった」が24.6%、「働いていない父親か母親がこどもをみた」が21.7%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「母親が仕事を休んだ」（9.8ポイント増）、「父親が仕事を休んだ」（4.8ポイント増）は高くなり、「親、親せき、友人・知人にみてもらった」（11.5ポイント減）、「働いていない父親か母親がこどもをみた」（9.3ポイント減）は低くなっている。

病気等で利用できなかった有無（H30）



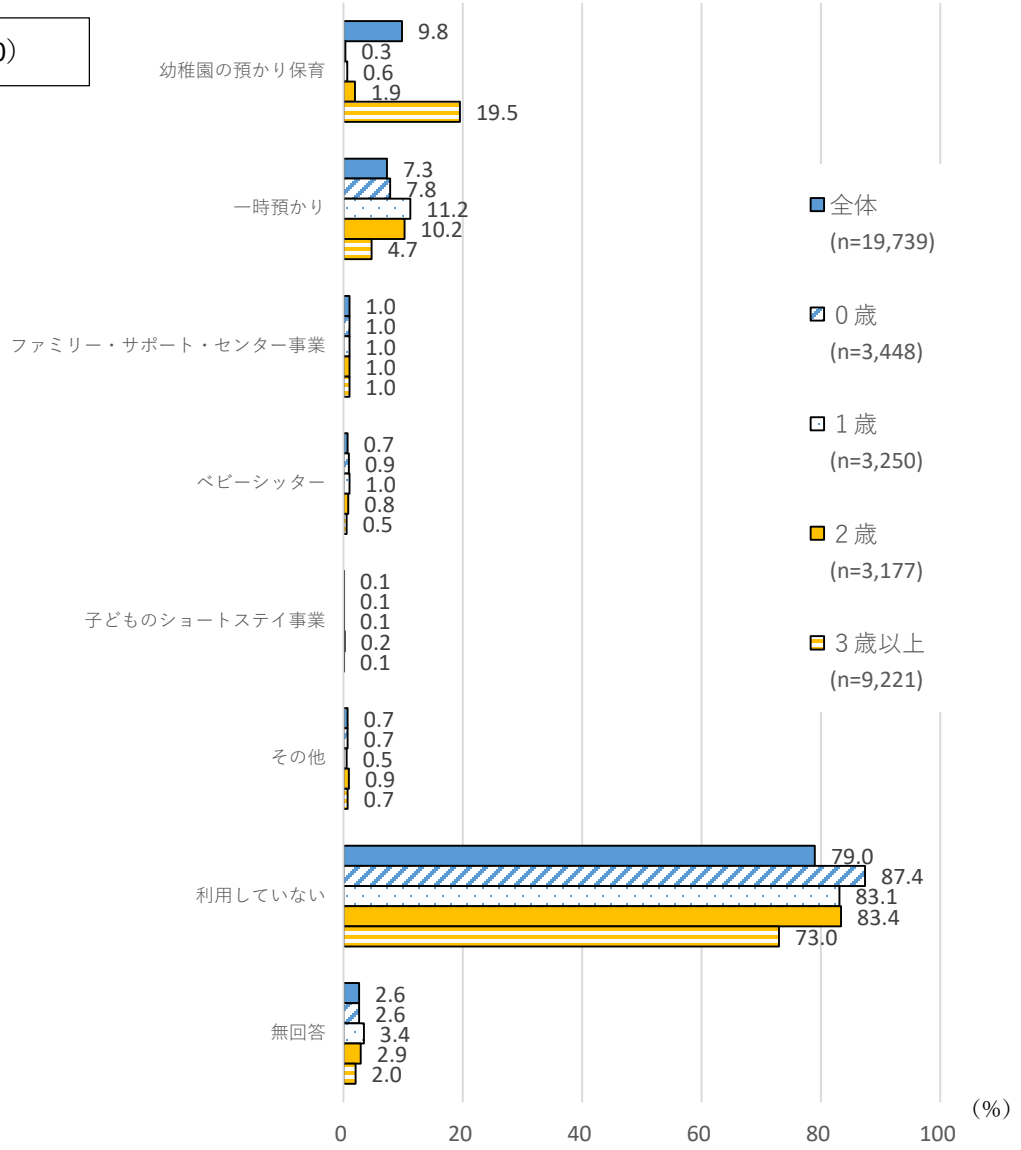
病気等で利用できなかったときの対処方法（H30－25比較）



こどもを預かる施設やサービスの不定期な利用状況

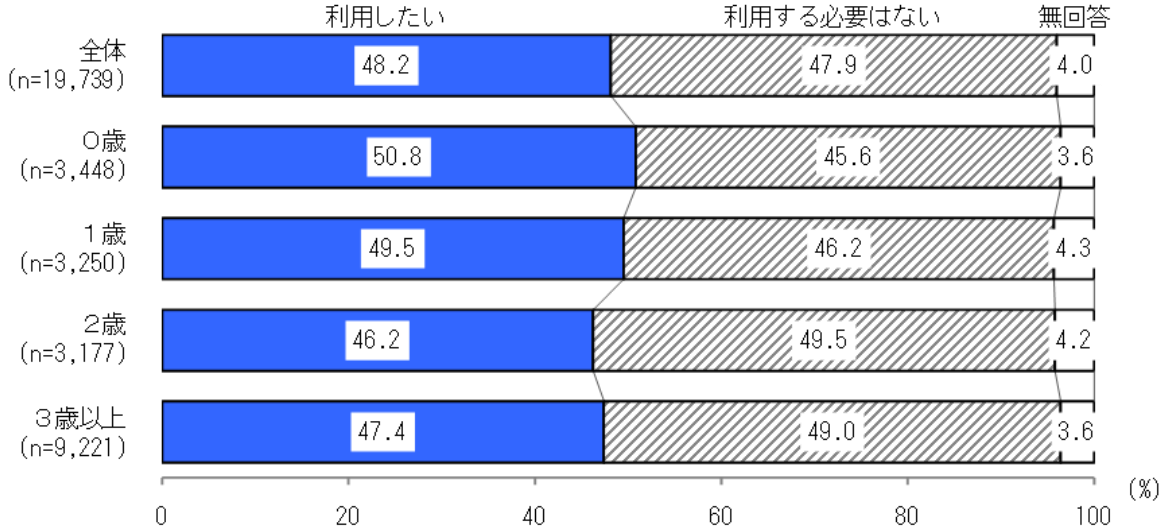
- 一時預かり等のサービスの利用状況については、「利用していない」が79.0％で最も多いが、利用した人では「幼稚園の預かり保育」が9.8％で最も多く、次いで「一時預かり」が7.3％となっている。
- こどもの年齢別でみると、「幼稚園の預かり保育」は３歳以上（19.5％）で最も高く、「一時預かり」は１歳と２歳で10％程度となっている。

一時預かり等サービスの利用状況（H30）

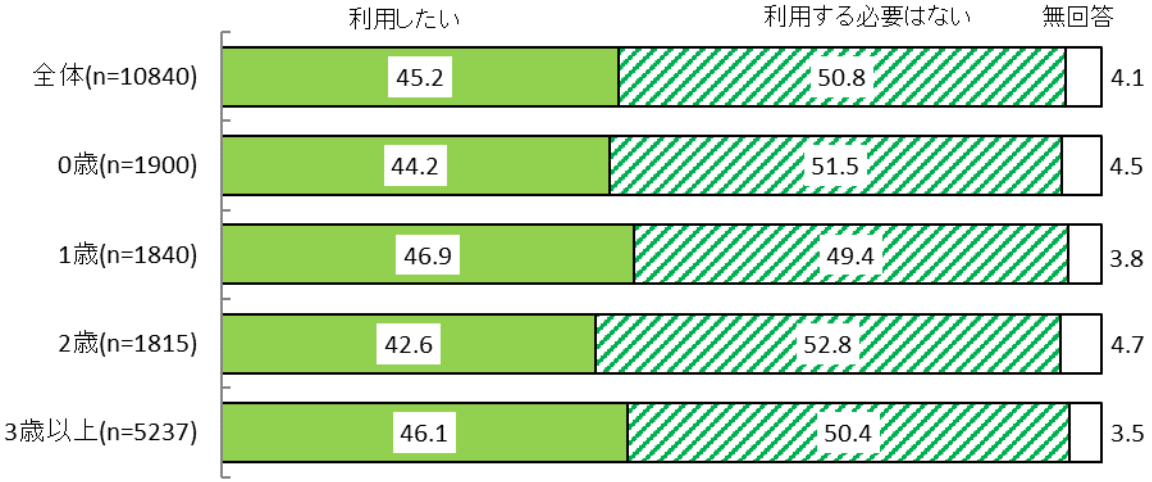


一時預かり施設やサービスの利用希望

- 一時預かり施設やサービスの利用希望については、「利用したい」が48.2%、「利用する必要はない」が47.9%となっている。
- こどもの年齢別でみると、「利用したい」は０歳（50.8%）で最も高くなっている。
- 平成２５年調査の結果に比べ、０歳で「利用したい」が6.6ポイント高くなっている。



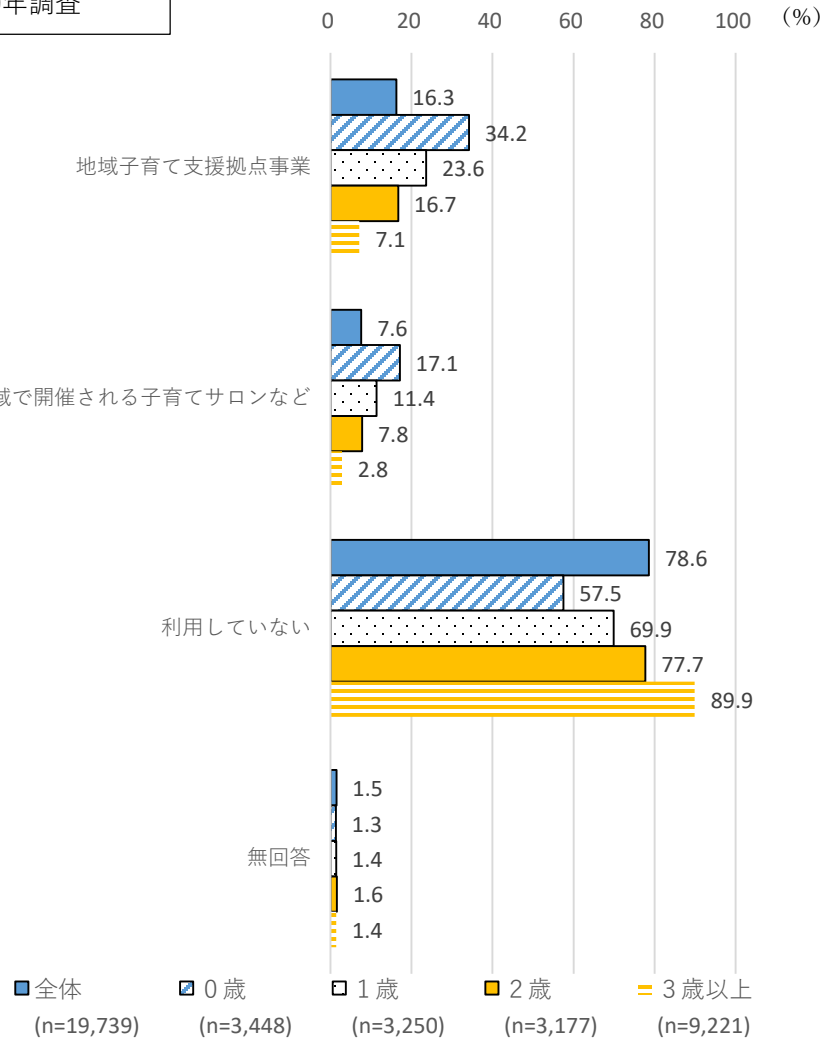
《参考》平成25年調査



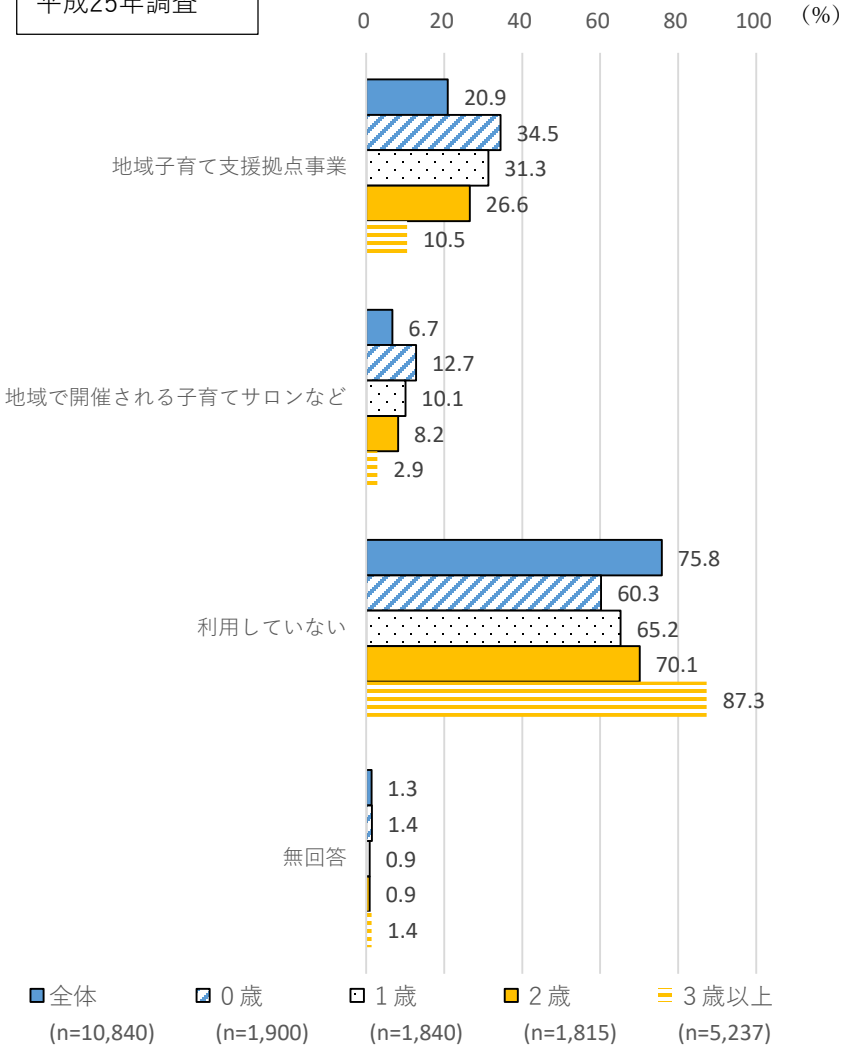
地域子育て支援拠点事業などの利用状況

- 地域子育て支援拠点事業などの利用状況については、「利用していない」が78.6％で最も多く、利用している人では「地域子育て支援拠点事業」が16.3％、「地域で開催される子育てサロンなど」が7.6％となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、地域子育て支援拠点事業（平成25年調査では「地域子育て支援センター、つどいの広場」）は1歳児で7.7ポイント低くなっている。

平成30年調査



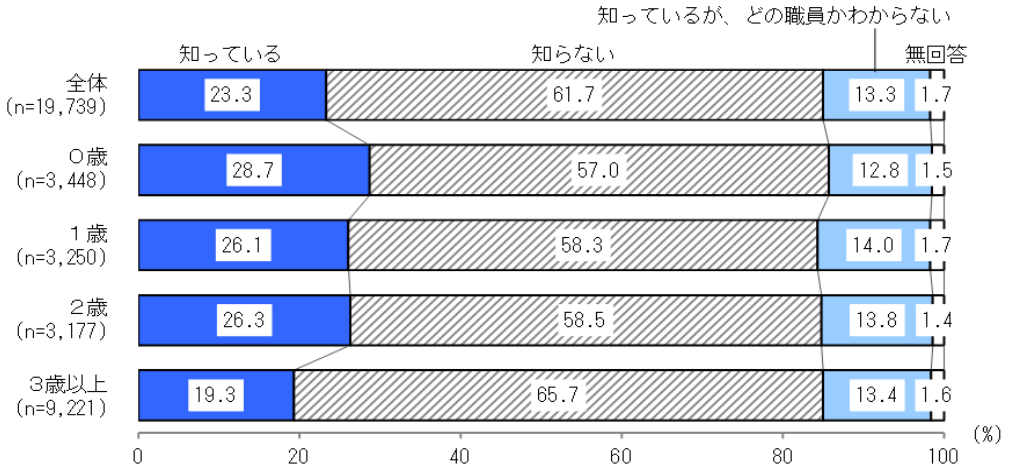
平成25年調査



利用者支援専門員の認知・利用状況・利用希望

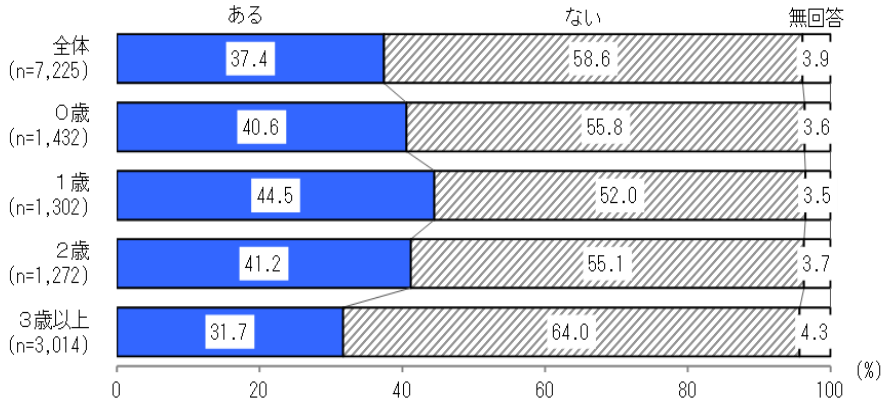
- 利用者支援専門員の認知状況については、「知らない」が61.7％で最も多く、次いで「知っている」が23.3％、「知っているが、どの職員かわからない」が13.3％となっている。
- こどもの年齢別でみると、「知っている」は０歳（28.7％）で最も高く、３歳以上（19.3％）で最も低くなっている。

利用者支援専門員認知状況（H30）

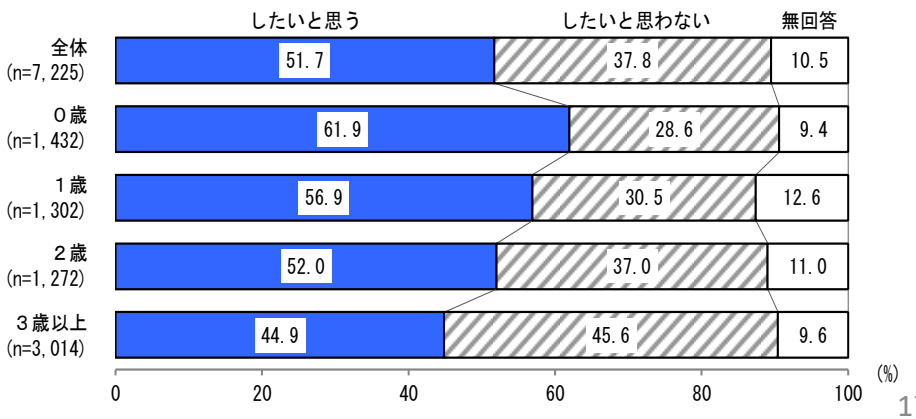


- 利用者支援専門員を知っていると回答した人に、利用者支援専門員に相談したり情報提供を受けたりしたことの有無についてたずねると、「ある」が37.4％、「ない」が58.6％となっている。
- こどもの年齢別でみると、「ある」は1歳（44.5％）で最も高く、0～2歳で40％台を占めている。
- 今後、利用者支援専門員に相談したり情報提供を受けたりする希望については、「したいと思う」が51.7％、「したいと思わない」が37.8％となっている。
- こどもの年齢別でみると、「したいと思う」は0歳（61.9％）で最も高く、年齢が上がるほど割合が低くなっている。

専門員利用状況（H30）

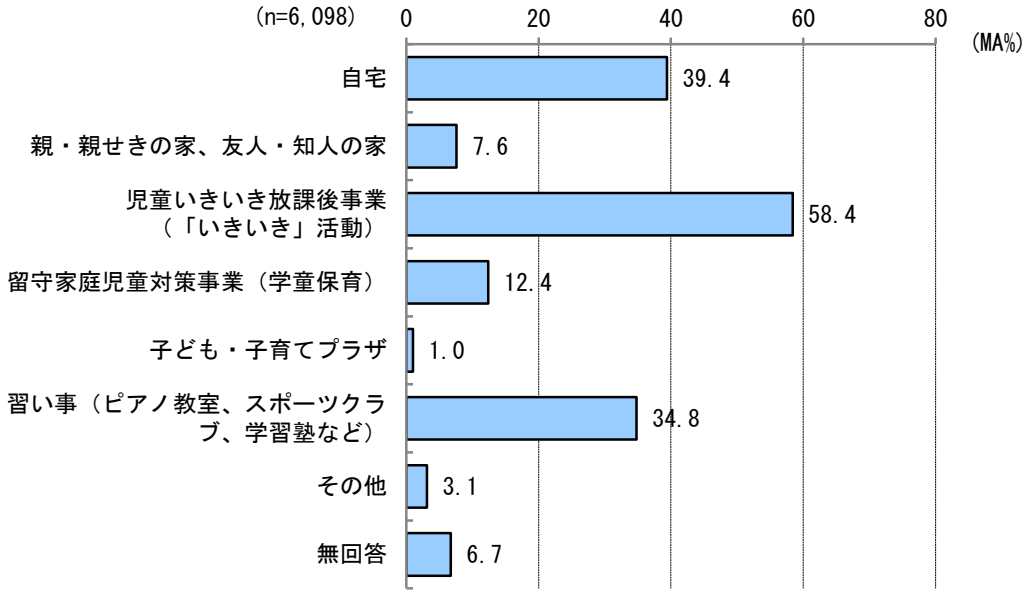


専門員利用希望（H30）

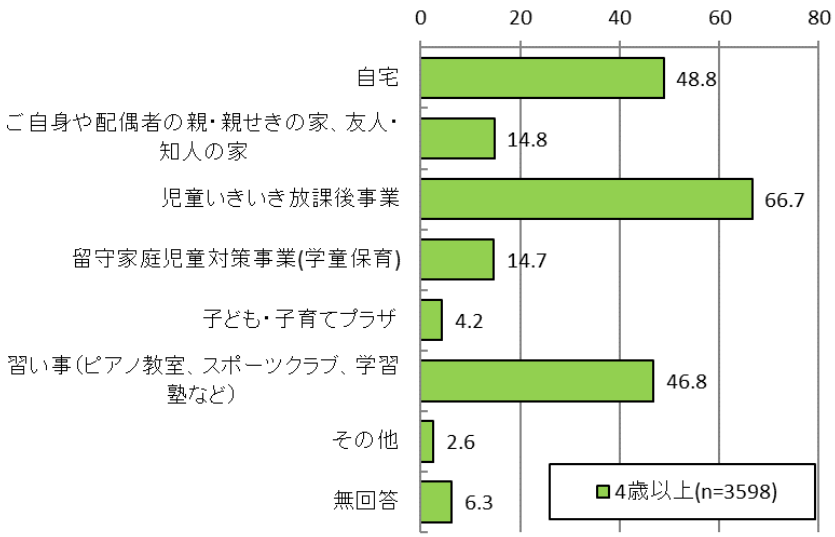


こどもが小学校低学年の間に、放課後過ごさせたい場所

- ４歳以上のこどもが小学校低学年の間に、放課後過ごさせたい場所については、「児童いきいき放課後事業（「いきいき」活動）」が58.4％で最も多く、次いで「自宅」が39.4％、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が34.8％となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が12ポイント、「自宅」が9.4ポイント、「児童いきいき放課後事業」が8.3ポイント低くなっている。



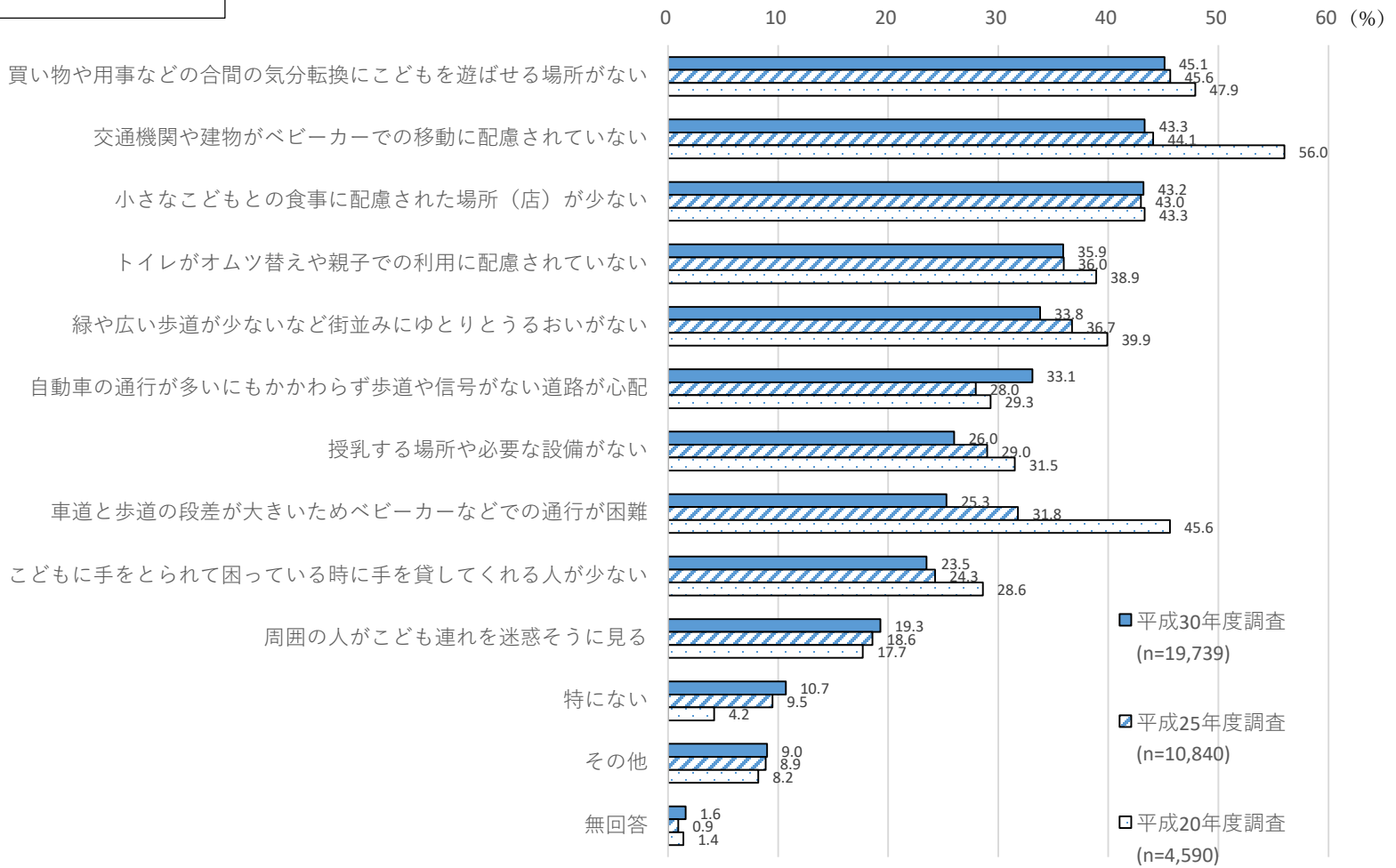
《参考》平成25年調査



こどもとの外出時に困ること

- こどもとの外出時に困ることについては、「買い物や用事などの合間の気分転換にこどもを遊ばせる場所がない」が45.1％で最も多く、次いで「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」が43.3％、「小さなこどもとの食事に配慮された場所（店）が少ない」が43.2％となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「車道と歩道の段差が大きいためベビーカーなどでの通行が困難」（平成25年調査では「歩道の段差などがベビーカーなどでの通行の妨げになっている」）が6.5ポイント低くなっている。（改善している）

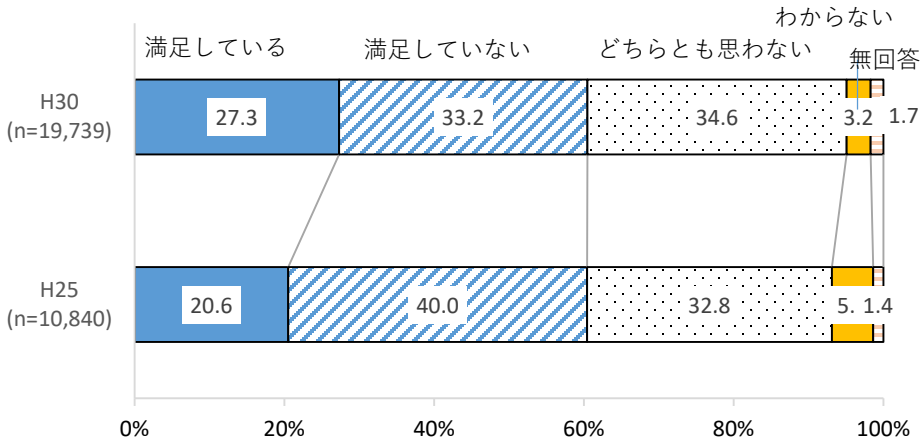
こどもとの外出時に困ること
（H30－25－20比較）



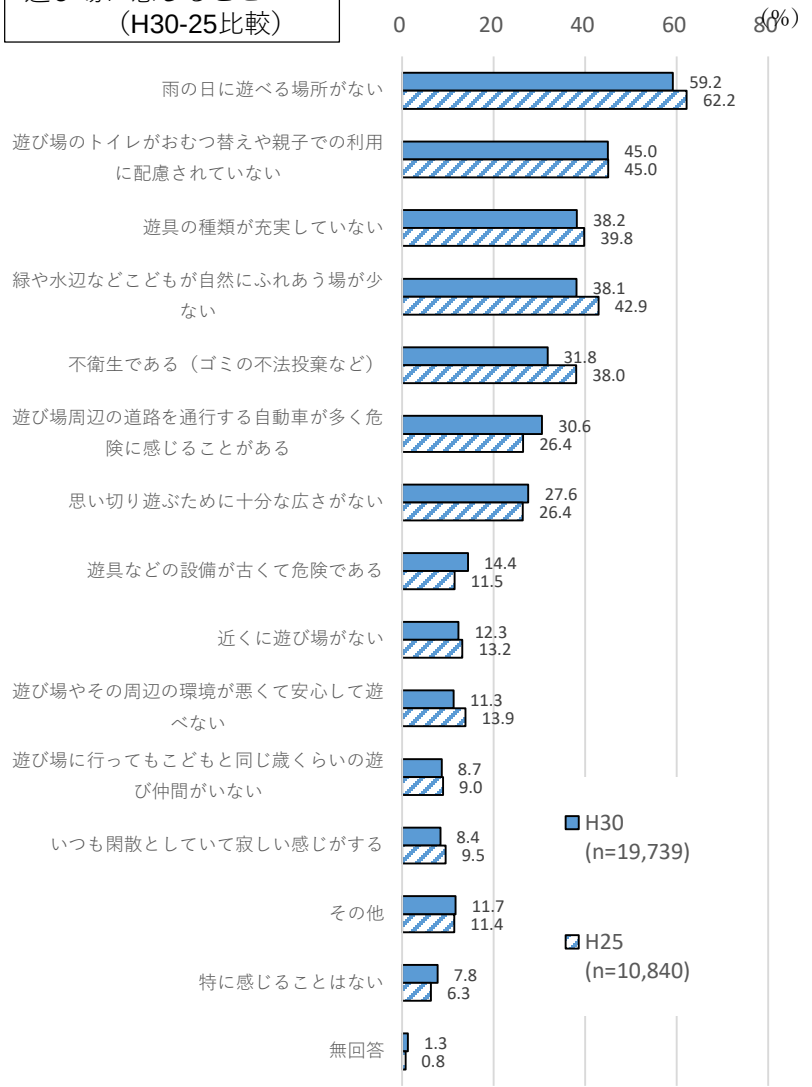
こどもの遊び場に関する満足度

- こどもの遊び場に関する満足度については、「満足している」が27.3%、「満足していない」が33.2%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「満足している」が6.7ポイント高くなっている。
- こどもの遊び場に感じることについては、「雨の日に遊べる場所がない」が59.2%で最も多く、次いで「遊び場のトイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていない」が45.0%、「遊具の種類が充実していない」が38.2%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「不衛生である（ゴミの不法投棄など）」が6.2ポイント低くなっている（改善している）一方で、「遊び場周辺の道路を通行する自動車が多く危険を感じることがある」が4.2ポイント高くなっている（悪化している）。

遊び場満足度（H30-25比較）



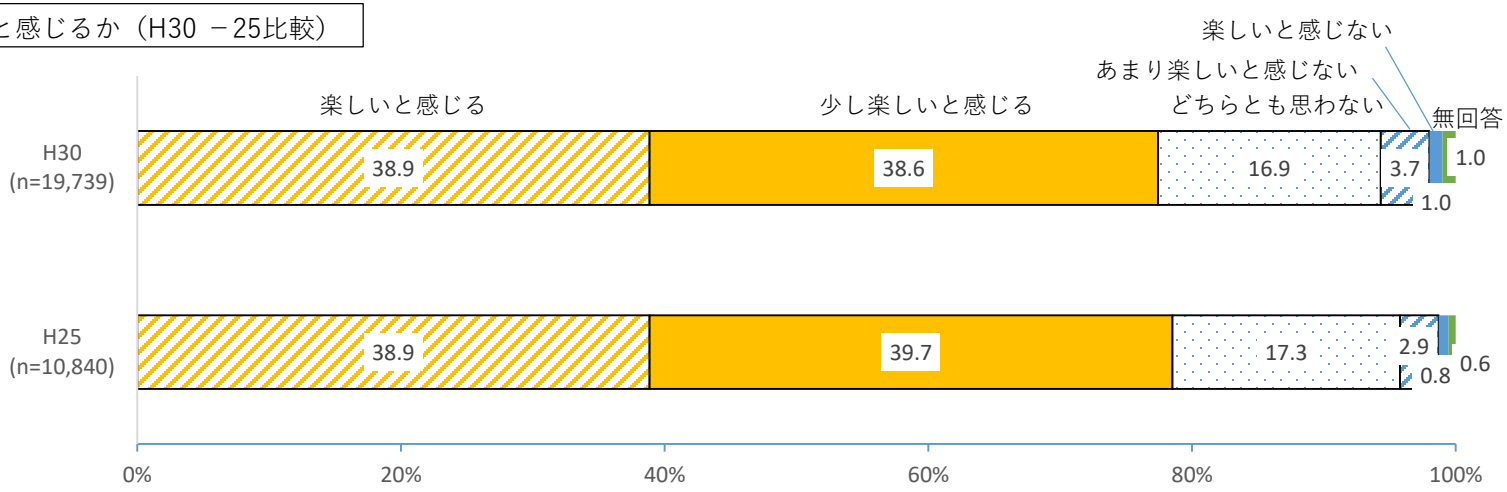
遊び場に感じること
（H30-25比較）



子育てについての楽しさや負担感の程度

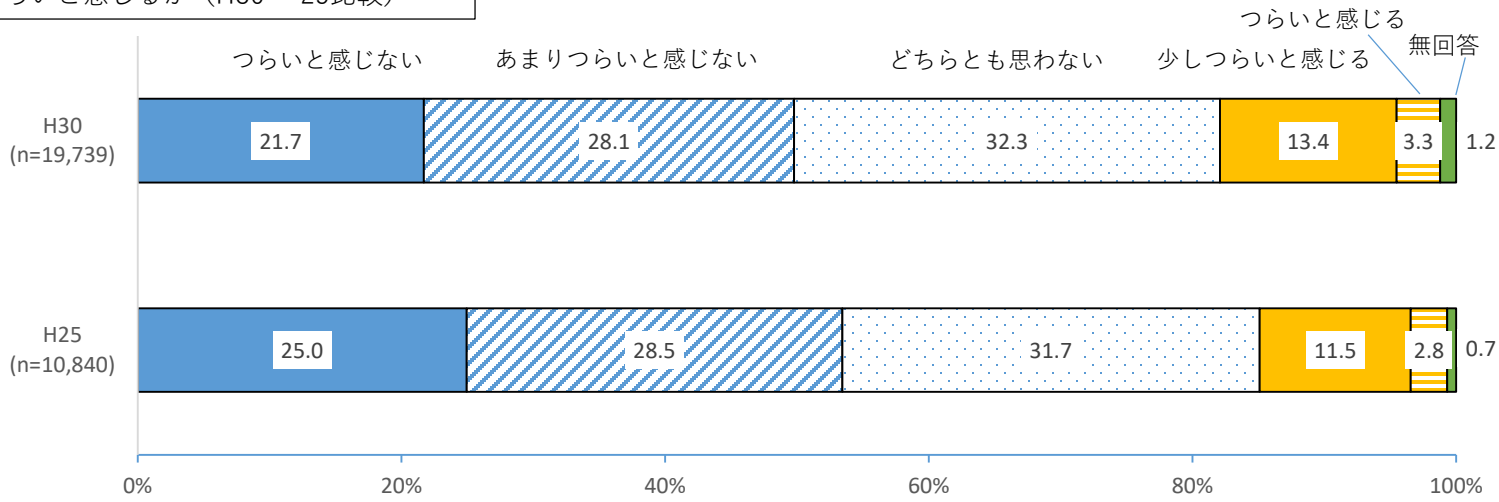
- 子育てを楽しいと感じるかについては、「楽しいと感じる」が38.9%で最も多く、次いで「少し楽しいと感じる」が38.6%で、両者をあわせた『楽しいと感じる』は77.5%となっている。

子育てを楽しいと感じるか（H30 －25比較）



- 子育てをつらいと感じるかについては、「どちらとも思わない」が32.3%で最も多く、次いで「あまりつらいと感じない」が28.1%で、「つらいと感じない」（21.7%）と「あまりつらいと感じない」をあわせた『つらいと感じない』は49.8%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べて、『つらいと感じない』は3.3%低くなっている。

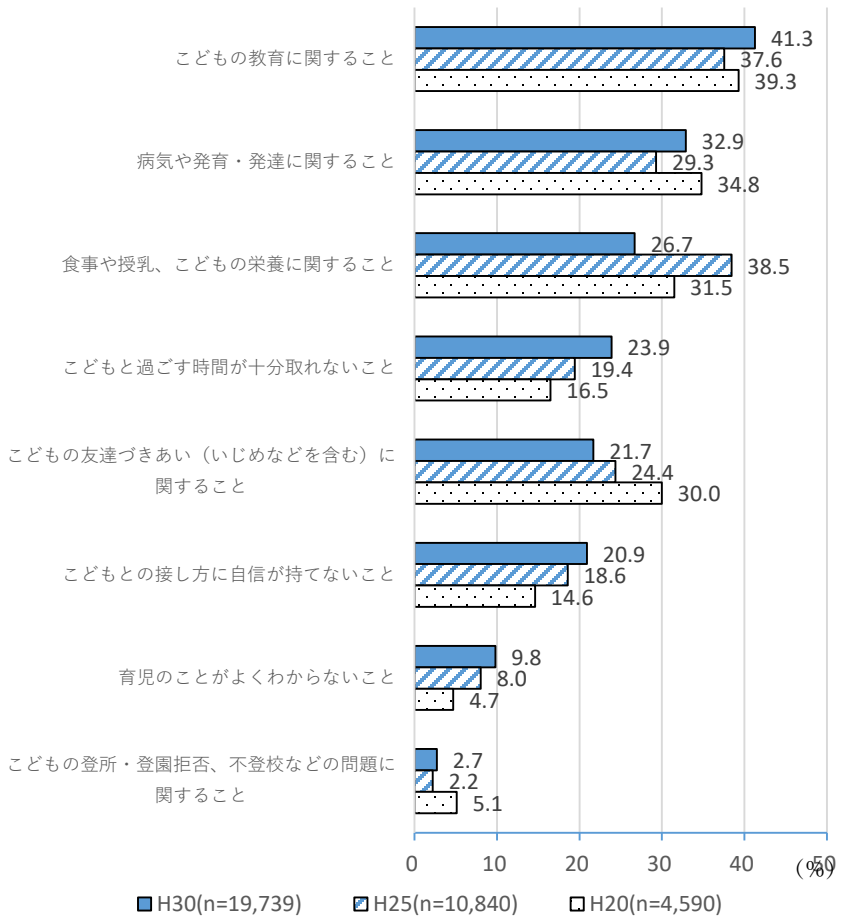
子育てをつらいと感じるか（H30 －25比較）



子育てに関する悩み

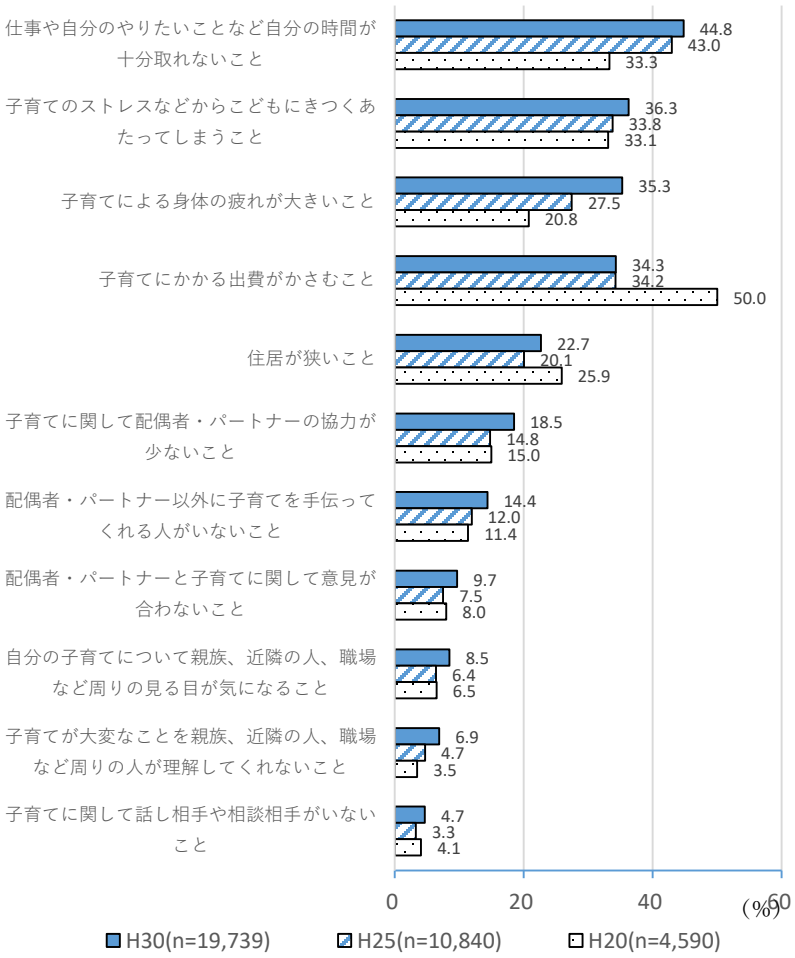
- 子育てに関する悩みについては、「こどもの教育に関すること」が41.3%で最も多く、次いで「病気や発育・発達に関すること」が32.9%、「食事や授乳、こどもの栄養に関すること」が26.7%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「食事や授乳、こどもの栄養に関すること」（平成25年調査では「食事や栄養に関すること」）が11.8ポイント低くなっており、「こどもと過ごす時間が十分取れないこと」は4.5ポイント高くなっている。

子育てに関する悩み（H30 －25－20比較）



- 保護者自身に関する悩みについては、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が44.8%で最も多く、次いで「子育てのストレスなどからこどもにきつくあたってしまうこと」が36.3%、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が35.3%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」（7.8%増）が高くなっている。

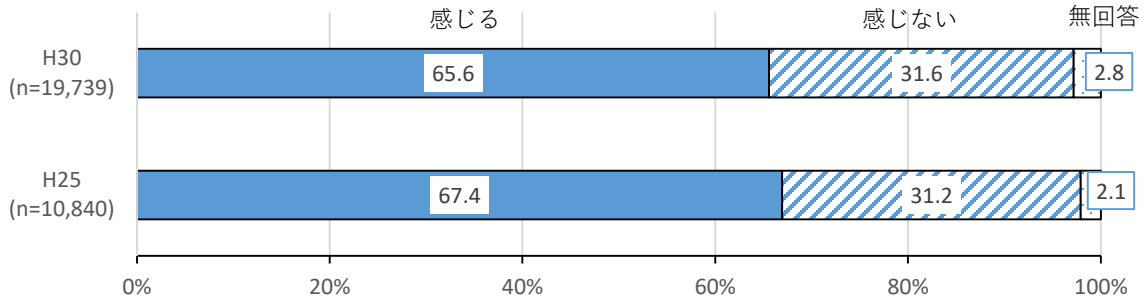
保護者自身に関する悩み（H30 －25－20比較）



子育てに対する地域の人や社会からの支え

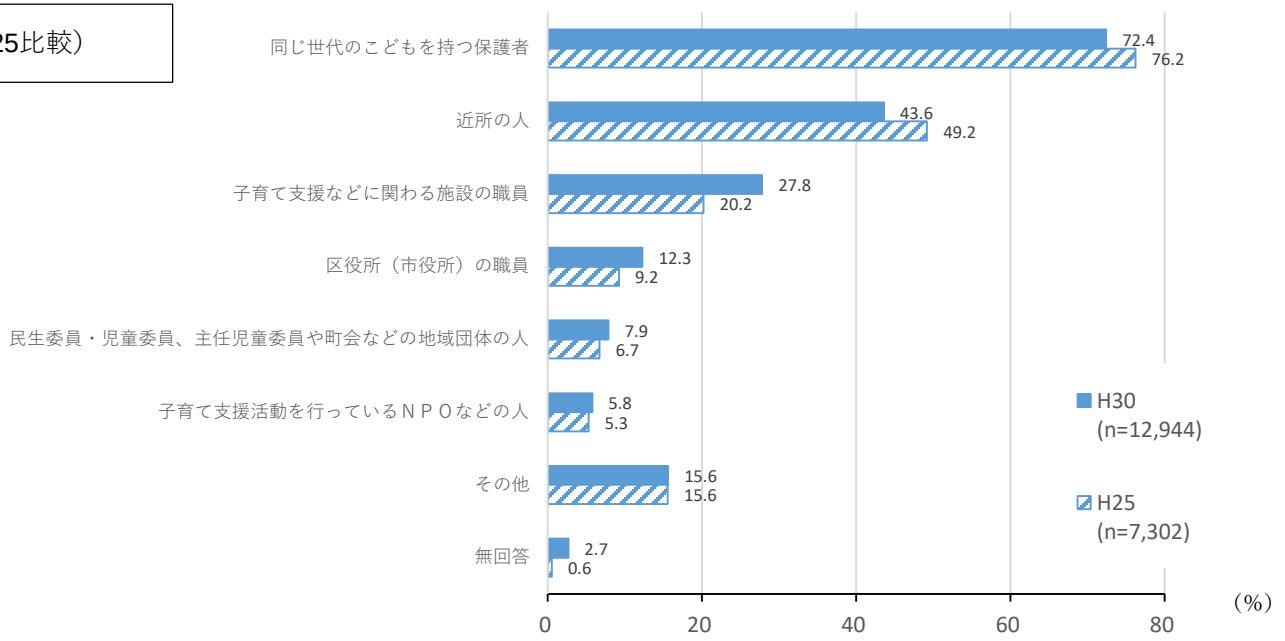
- 子育てが地域の人や社会に支えられていると感じるかについては、「感じる」が65.6%、「感じない」が31.6%となっている。

地域の人や社会に支えられていると感じるか（H30-25比較）



- 誰に支えられていると感じるかについては、「同じ世代のこどもを持つ保護者」が72.4%で最も多く、次いで「近所の人」が43.6%、「子育て支援などに関わる施設の職員」が27.8%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「近所の人」（5.6ポイント減）や「同じ世代のこどもを持つ保護者」（3.8ポイント減）は低くなっており、「子育て支援などに関わる施設の職員」（7.6ポイント増）や「区役所（市役所）の職員」（3.1ポイント増）は高くなっている。

誰に支えられていると感じるか（H30-25比較）

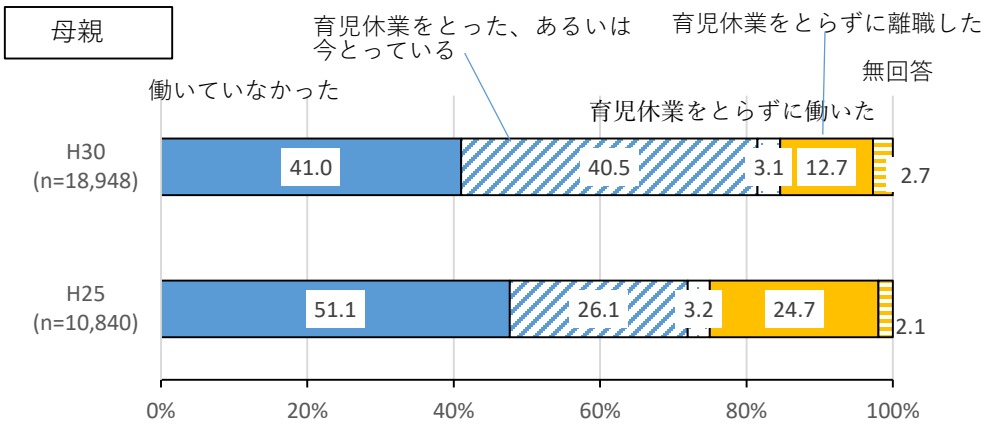


育児休業の取得状況、仕事と子育てを両立させる上で大変なこと

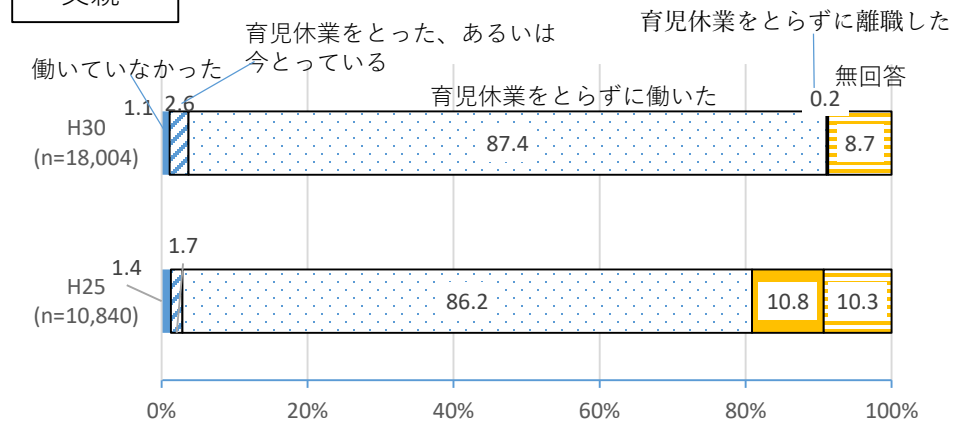
- 母親の育児休業の取得状況は、「働いていなかった」が41.0%で最も多く、次いで「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が40.5%、「育児休業を取らずに離職した」が12.7%となっている。
- 父親の育児休業の取得状況は、「育児休業を取らずに働いた」が87.4%で最も多く、次いで「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が2.6%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、母親は「働いていなかった」が10.1ポイント低くなり、「育児休業を取った、あるいは今取っている」が14.4ポイント高くなっている。

- 仕事と子育てを両立させる上で大変なことは、「病気やけがをした時に代わりにこどもをみてくれる人がいないこと」が59.6%で最も多く、次いで「こどもと接する時間が少ないこと」が50.4%、「残業や出張が入ること」が35.2%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「こどもと接する時間が少ないこと」が7.2ポイント高くなり、「職場に子育てを支援する制度がないこと」が5.1ポイント低くなっている。

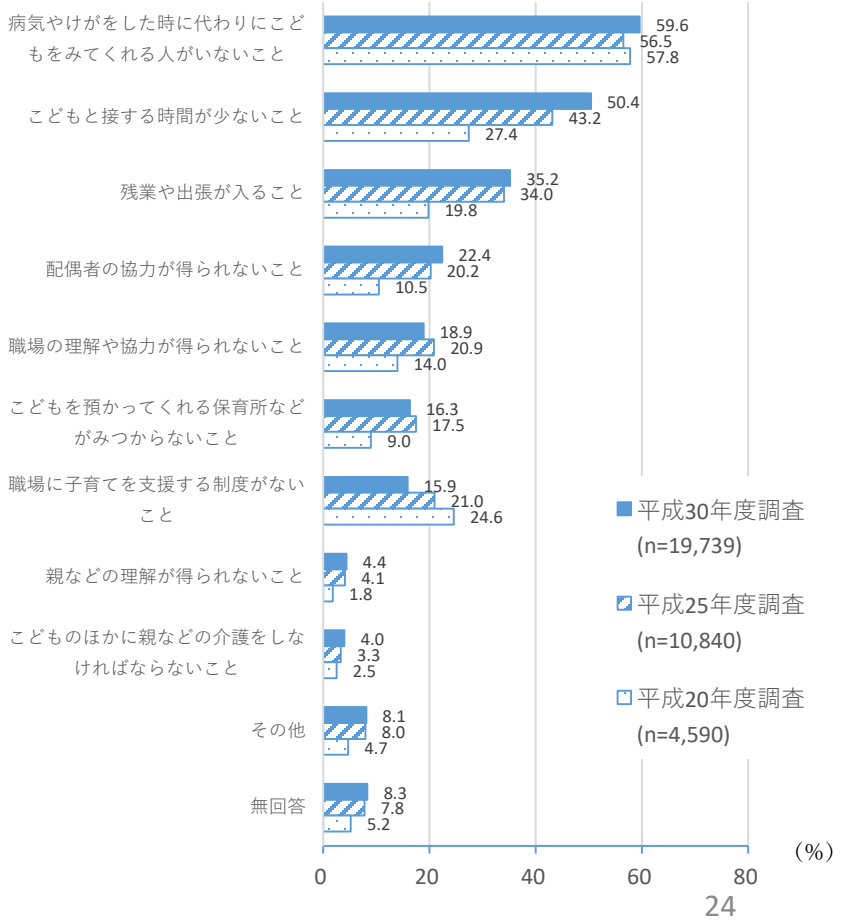
母親



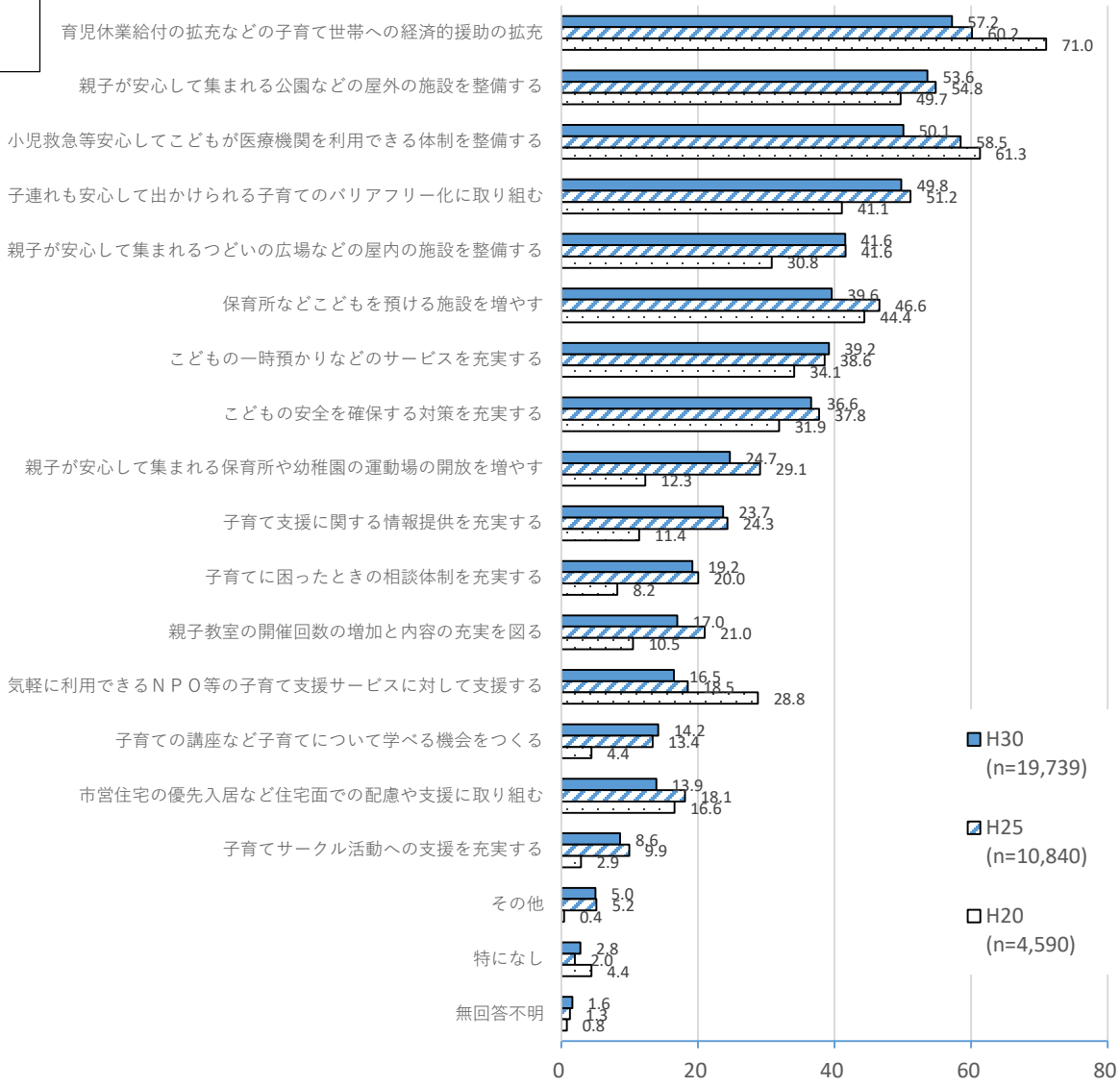
父親



仕事・子育てを両立させる上で大変なこと（H30-25-20比較）



市・区に対して充実してほしい子育て支援サービス

- 市・区に対して充実してほしい子育て支援サービスは、「育児休業給付の拡充などの子育て世帯への経済的援助の拡充」が57.2%で最も多く、次いで「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」が53.6%、「小児救急等安心してこどもが医療機関を利用できる体制を整備する」が50.1%となっている。
- 平成22年及び平成25年調査の結果に比べ、「育児休業給付の拡充などの子育て世帯への経済的援助の拡充」や「小児救急等安心してこどもが医療機関を利用できる体制を整備する」がポイントを下げている（改善している）。

市・区に充実してほしい子育て支援サービス
（H30-25-20比較）